

就労継続支援B型事業所 すずかけ

1 基本方針

地域で暮らす障がいのある方が、地域の中でいつまでも自立した日常生活を営むことができるよう、一人ひとりの障がいの状況に応じた生産活動の提供と個別支援を行うことで、利用者の労働意欲の高揚を図るとともに、より高い工賃が支給できるよう努める。

2 利用者の状況（令和5年3月31日現在）

(1) 入所者状況														(人)	
利用人数		前年度末利用者数	令和4年度中の入退所状況										利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数
			入所人員	退所人員	退所理由別										
					地域移行		家庭復帰	施設移管	死亡	就職	サービス変更	他			
区 分	定員	GH	アパート等												
継続B型	38	37	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	6,456	69.9%	35
3年度 継続B型	38	37	2	2	0	0	0	0	0	0	1	1	7,234	79.0%	37

(2) 障害支援区分
就労継続支援B型 (人)

性別	障 害 支 援 区 分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	5	1	5	2	7	1	0	21
女性	1	0	1	5	4	3	0	14
計	6	1	6	7	11	4	0	35

3 事業の実施状況

- (1) 商品開発、販路拡大等による収入増と工賃の向上
- ア 印刷関連事業については、利用者として印刷補助に配置していた方が一般就労へ移行となり、継続してすずかけで支援員補助として従事している。
- 職員の業務習熟度も合わさり、法人内外問わず企業様から個人まで安定した取り引きに繋がった。更なる販路拡大に向けて行政機関等へ営業を行うと共に、昨年度より引き続きDFTプリントの営業と広報誌、HP、SNSを利用した宣伝による発信に努めた。
- 冬季の受注数減少による閉散期の対策として、動画制作をPRし、菓子工房はまなすや伏野つばさ園から依頼を受けた商品宣伝の効果に繋がった。
- 検討課題となっている「伏野つばさ園」への移行については、新たに印刷に携われる利用者の確保が難しい現状があり、今後検討することとしている。
- イ HACCP（食品を製造する際に工程上の危険を起こす要因を分析し安全を確保する管理手法）の考え方を取り入れた衛生管理については、鳥取県産業技術センター専門員の指導により、所内独自の手引書について見直しを図り、衛生管理計画に基づいた更なる商品の安心安全に努めた。また、専門知識向上を目的とした職員の研修参加推進を図った。
- ウ 受託作業については、利用者の特性に合わせて治具の改良を行い作業効率の向上に努めるとともに、アセスメントに沿った見極めを行いながら適正を活かした作業種の提供をした。
- 難易度高い高単価作業については、主力であった利用者の自宅療養に伴う長期欠勤や入院により休止せざるを得ない状況となったため、体制や提供する作業種について精査を行った。
- エ 鳥取県就労事業振興センターと連携を図り、年間通して県庁や遊技業共同組合等へ注文販売についての斡旋を受けた。セット商品やパッケージについてアドバイスを受け、商品がマンネリ化しないように努めた。
- イベントについては、今年度も新型コロナウイルスの影響により参加の機会は1回のみとなったが、次年度に向け新商品「ビネガージュース」「ドライフルーツ入りジュース」の試作・販売を行い、天気も影響して売上良好であった。
- 利用者の高齢化や精神不安定による長期療養及び入院により、作業の安定性が見込めず受託作業については収入減となったが、全体では平均工賃目標額15,000円に対し、16,912円で

目標工賃達成となった。

(2) 障がい特性に合わせた支援と職能評価

ア 自閉症、行動障がい等の障がい特性に配慮し、構造化を図ることで落ち着いて働ける作業環境や分かりやすい手順書の整備を行った。また、高齢化の方については椅子の変更や所内での杖使用について検討して、転倒防止に努めた。

イ 利用者の職能評価は3ヶ月毎に実施し、客観的な評価をして作業班の中で本人へフィードバックし作業意欲や能力の伸張に繋がるように働きかけた。固定職員が評価することで偏りのないよう、1年毎に全体での振り返り合わせも行っている。また、個別支援計画時のアセスメントと職能評価がリンクしていないものについては、カンファレンス時に見直しを図り課題と繋がるようにした。

ウ 個別支援計画作成時に、本人、保護者から要望を聞き取り、作業状況を確認し内容の見直しや本人の希望に沿ってステップアップできるように計画の見直しを行った。

(3) 地域に密着した農福連携と地産地消

ア 「道の駅西いなば気楽里」「おもしろ市」「わったいな」「道の駅かわはら」「おでかけマルシェ」で加工食品を販売した。新型コロナウイルスの影響でイベントが中止となる事も多かったが、縮小化の中でも感染対策に努めながら実施に至ったものもあった。

4年度は「道の駅気楽里」にて対面販売の機会があり、加工品だけでなく新商品に向けた試作を手にとってもらえるよう宣伝に努めた。また、購入の際には、飲料時の感想や購入者の年齢層などのニーズ把握も行った。

イ 海産物については、漁の関係で泊漁港よりあかもくの仕入れができず、新たに網代漁港より仕入れた。また、大根については生産者の繋がりで安定した仕入れルートの確保ができており、地元の食材を生かした切干大根は、保育園関係や法人の厨房からも通年通して注文があった。

また、乾燥あかもくについても、コタニを通じて旧気高郡と河原町4カ所の給食センターで使用してもらい、また販路拡大に向け営業にご尽力をいただいた。

「ふるさと鹿野」所有の蓮根畑より、蓮の葉を採取させてもらい、乾燥・袋入れしたものを鳥取中央青果へ卸した。鹿野町支所地域振興課より、特産品として鹿野町名をラベルに明記してはどうかとの相談があったが、地元生産者とのトラブルが懸念されたため4年度は保留とした。

(4) 利用者の安定確保

ア 利用者ニーズに応えるため、体験支援体制や作業提供体制を整え、利用や体験を前提とした在宅の障がい者2名の見学受け入れを行ったが、立地や作業内容を理由に契約には至らなかった。

現在利用している利用者の時間を増やす等利用促進に努めたが、高齢化による長期入院や長期利用中止、また新型コロナウイルス感染防止による利用中止も重なり、目標稼働率を達成できなかった。

年々に高齢化が進み、介護が必要な方、65才以上の利用者も多く利用されていることから若年層の利用者の確保が課題である。また、利用者確保が困難な状態が続けば、就労継続支援B型としての事業継続のあり方について検討が必要となっている。

イ 新型コロナウイルスの対策を徹底し、白兔養護学校から現場実習生として高等部2年生を1名受け入れた(5日間)。2年生のみの実習で終わらず、3年生時も継続して実習を受け入れることにより、卒業後の利用に繋げたい。

稼働率：目標85% 実績69.9%

(5) 地域福祉への貢献

ア 「鳥取市西地域つながる会」に参加し、精神障がいのある方やその家族など、鹿野町の出張カフェの場としてすずかけへ打診を受けたが、新型コロナウイルス感染症の広がりが懸念されるため断念した。

また、地域のイベントについても感染へのリスクを考慮し、参加を控えた。

イ 4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため小中学校、地域自治会との交流は全て中止となり、障がい理解の啓発が出来なかった。

ウ 勝谷公民館活動のコスモス植えに参加した。コスモスの苗植えを行うことにより地域の環境美化に協力した。

エ 地域における生活困窮者支援の充実(就労体験場所の提供)を図るための他機関との連携及び協働が十分できなかったため、支援体制の構築に努めることができなかった。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取大学介護体験実習	8月	2人	2人
計		2人	2人

(2) ボランティアの受入実績

実績なし

5 就労支援事業の実績

作業班	4年度目標額	実績額 (前年度実績額)	達成率	作業の内容
園芸作業班	600,000円	565,000円 (600,000円)	94.2%	園芸作業の受託
清掃作業班	1,200,000円	1,290,571円 (1,218,409円)	107.5%	公共庁舎等の清掃作業
部品組立班	1,788,000円	975,392円 (1,361,092円)	54.6%	弱電機器部品の組立作業等の受託
自主製品班	11,766,000円	10,936,009円 (10,634,437円)	92.9%	海産物加工、印刷製品等作成販売
計	15,354,000円	13,766,972円 (13,813,938円)	89.7%	